

ポイント
政府に財政再建やりきる意志を感じられず
「痛み」がなければ本格的な改革は困難か
日本国債売りを狙う動きがあることも事実

伊藤 元重 東京大学教授

日本の財政をどうにか健全化したいのか。これまでも多くの人が議論してきた。考え方に多少の違いはあるが、その基本的な論点は同じだ。歳出の大きな伸びが予想される社会保障の改革を断行し、増税で財源を確保し、そして経済成長を促して財政運営を少しでも楽にする。これに尽きるだろう。

経済教室

だ。これまで何度か財政改革案が作成された。部分的な改革も行われた。しかし、景気が悪くなるなどの改革案は棚上げにされ、目先の経済対策に追われて政府債務はさらに積み上がってしまっている。この20年、政府債務は増え続ける一方で、公的債務の規模は危機的状況にまで積み上がってしま...

財政を問う①「閉塞感の中の安定」続かず
国債価格の急落に備えよ

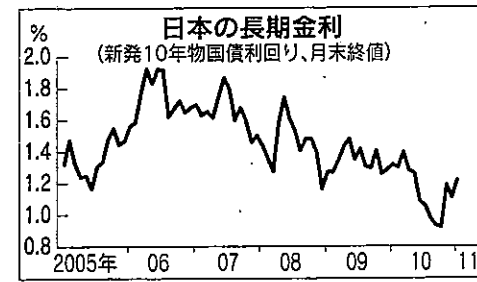


や腹に鋭い痛みを感じたら、あわてて病院に駆け込むだろう。痛みは私たちの体の要請を知らせる貴重なシグナルなのだ。しかし、中性脂肪やコレステロールの数値が高いからといって、なかなか真剣に体質改善には取り組まない。いつの間にか深刻な生活習慣病になってしま...

「創造的破壊」の可能性

大胆な社会保障改革カギ

ば、もつ少し多くの人がメタボ対策に取り組み、生活習慣病も減るだろうと期待できるからだ。
財政問題にもこれに似た面がある。国民の多くは日本の財政状況が深刻であることを知っている。しかし、それですべて生活がおかしくなるわけではない。メタボの人が問題を先送りするように、財政問題も先送りされてしま...



が、もつ少し多くの人がメタボ対策に取り組み、生活習慣病も減るだろうと期待できるからだ。
家計部門は過剰に金融資産を積み上げている。将来が不安であるので支出を抑えてきたといっている。だから内需が落ちる。企業部門も戦後最大といわれる手元資金を抱えている。投資などに回さないで手元に多くの資金を抱え込んでいるのだ。これも内需不振の要因だ。

変化はいろいろある。欧州の財政問題がグローバルマネーの攻撃から起きたように、日本の国債の売りを狙う動きがある」とは事実だ。世界的な景気回復で金利が上昇していけば、日本の金利だけ低く抑えきれなくなる。これは分らない。最近懸念されている新興国を中心としたインフレ基調と世界的な資源価格高騰が、そうした長期金利上昇の原因となる可能性もある。

ここで、第三は「創造的破壊」という考え方で知られるオーストラリア学派。古いものを破壊し、大きな混乱の中で新しいものが生まれてくるという考え。破壊はあまり歓迎したくないが、日本の財政もその方向に向かっているような気がしてならない。
ただ、混乱の先に展望はある。それは財政健全化であるが、社会保障以外の歳出はすべて国内総生産(GDP)比で抑えることができるはずだ。人口減少社会で、公共投資、教育、防衛などの歳出をGDP比で大きく増やす必要はないだろう。問題は社会保障だけだ。だから医療、年金、介護の分野で大胆な改革を行うことが、財政再建のための必要にして十分な条件である。大胆な社会保障改革ができるか、そしてそれに足りる財源を増税で確保できるか。これが日本の財政再建の鍵である。

いとう・もとしげ 51年生まれ。ロチェスター大博士。専門は国際経済